

預託を行い、約三倍の融資を行ってある。受付事務は全面的に商工会に委託し、十四年度融資実績は、六十五件の二億一、三七〇万円である。また、商店街には二〇軒の空き

店舗があることから、商店街を活性化しようと、平成十一年に空き店舗を「交流センター」として整備し、各種イベントを行っている。

グリーンツーリズムを 活かした町づくり

大分県安心院町

人口約八、六〇〇人の安心院町は、農業が基幹産業であり、水稲の他には、二〇〇畝でブドウ栽培がなされている。

安心院町は、農業で一品目一〇億円を超す農産物がない。農業だけでは、生活していけない。そして、過疎や高齢化の悩みを抱えている町だからこそ、何か出来るものはないかと模索していた。

農村部の過疎化が進むなか、近年、都市と農村がお互いの良さを理解し、共生していかうとする「都



安心院町での事務調査

市農村交流」が目ざされるようになった。そのよくななかで、平成四年に「アグリツーリズム研究会」という組織ができて、農家宿泊などをメインとした「グリーンツーリズム」への取り組みが始まった。

「グリーンツーリズム」のなかで、安心院町独自の「会員制農村民泊」が

注目されている。一般的には、「旅館業法」、「食品衛生法」の規制があり、普通の農家ではできないが、普通の民家の空いた部屋に泊まって交流を深め、農業・農村を理解してもらおう考え方である。

「グリーンツーリズム」を取り組むことによって、町の価値が高まれば、そこに住む者は、その良さに気づく。また、農村には、都会の人を喜ばせるもの、感動させるものがあるといえる。そして、農業という職業は、まんざらじゃないと

気づく。そうすることによって、子供たちに地域に対する誇り、ふるさとに対する誇りが生まれてくる。このような安心院町のグリーンツーリズムに取り組む基本姿勢が何えた。

最近の議会の主な動き

平成15年

- 12・1日 第7回定例会 閉会
- 8日 第15回広域合併調査特別委員会
(入来町議会との情報交換会)
- 9日 第16回広域合併調査特別委員会
- 18日 議会運営委員会・議会全員協議会
第17回広域合併調査特別委員会
- 19日 第7回定例会 閉会
第18回広域合併調査特別委員会
- 20日 祁答院5か町議会懇談会(入来町)
- 25日 第19回広域合併調査特別委員会

平成16年

- 1・16日 第20回広域合併調査特別委員会
- 22日 第21回広域合併調査特別委員会